

## 第1編 計画のめざすもの

本計画では、今世紀後半の早い時期、2050年の「GHG 排出量実質ゼロ」実現に向け、SDGsの考え方を活かし、経済、社会、環境が抱える問題の同時解決を念頭におき、地域の枠組みはもちろんのこと、より広い範囲での連携や協力のもとで、取組みを推進していきます。

2050年のGHG 排出量実質ゼロを達成した姿を「ゼロカーボン おおさか」とし、大阪の成長につながる脱炭素社会の実現をめざします。

### 1 計画の目標

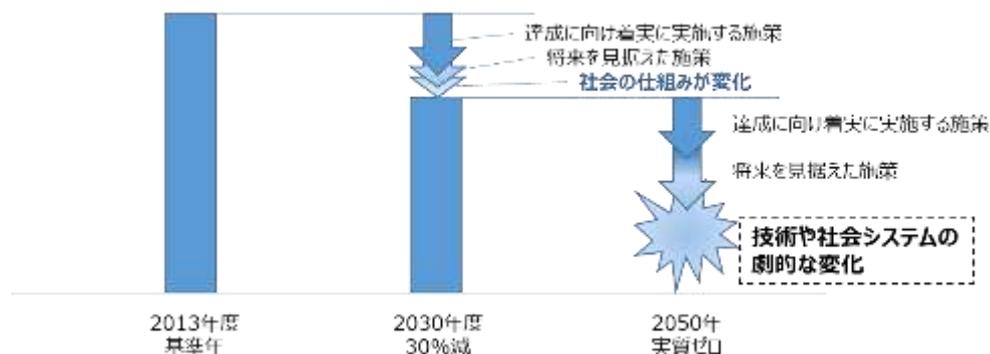
本計画の目標は、次のとおりとします。

「2050年のGHG 排出量実質ゼロをめざし、2030年度までに大阪府域のGHG 排出量を2013年度比で30%削減します。」

2030年度の目標達成に向けては、これまで取り組んできた施策を着実に実施するとともに、さらに深く、広く展開することや、働き方や生活様式の変化に伴うGHGの削減、今後実施されるであろう新たな取組みによるGHGの削減によって「社会の低炭素化」を図り30%削減の達成をめざします。

2050年のGHG 排出量実質ゼロは、これまでの延長線上にある取組みだけでは達成することが難しい非常に高い目標です。目標の達成に向け、今はまだ実用の段階にない革新的な環境技術を早い段階で実用化し、さらに全く新しい技術や習慣の定着を図ることで「脱炭素社会」の達成をめざします。

## ■ 目標設定の考え方



### 2 2050年目標の達成に向けたスキーム

目標達成に向け、使用するエネルギーの低炭素化と徹底した省エネルギーを推進し、それでも削減しきれないものを域外の貢献で補うことを基本的な考え方とします。

大阪市は、「ゼロカーボン おおさか」の実現に向け、すべての主体が自主的かつ積極的に目標の達成に向けた取組みを展開できる仕組みづくりや脱炭素社会を見据えた都市インフラなどの基盤整備を着実に実施するとともに、2050年に向けた非連続なイノベーションが芽吹き、育まれやすい場の創造など、基礎自治体として取組みを展開します。

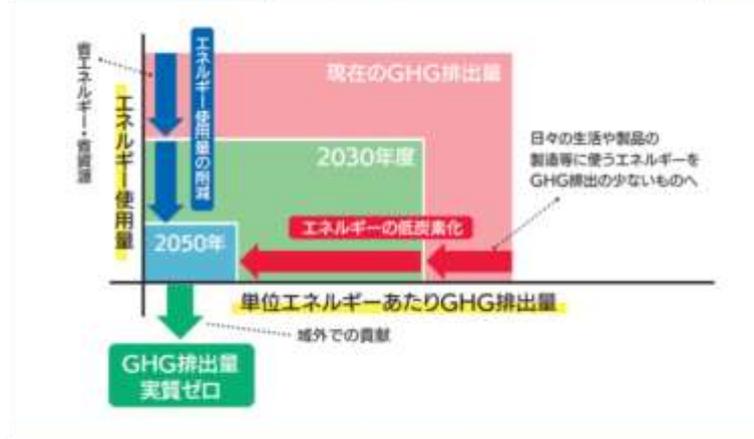
また、気候変動の適応についても、あらゆる施策へ「気候変動への適応」の視点が組み込まれ、適応の主流化が図られるよう、取組みを進めてまいります。

## ■めざす姿とストーリー

### 2050年にめざす姿：ゼロカーボン おおさか

大阪の成長につながる脱炭素社会の実現

## ■2050年 ゼロカーボンに向けて



あらゆる施策へ「気候変動への適応」の視点を組み込むことによる適応の主流化

大阪の成長につながる脱炭素社会「ゼロカーボン おおさか」は、次の5つの「まち」が形成された姿です。

- ・低炭素なエネルギーで暮らすまち
- ・脱炭素マインドに満ち溢れ、脱炭素な行動が浸透したまち
- ・脱炭素化のしくみを組み込んだ持続可能なまち
- ・多様なきずなを活かし、脱炭素化をリードするまち
- ・気候変動への備えがあるゆるぎないまち

5つの「まち」は、すべての主体の参加と連携・協働のもと、「ゼロカーボン おおさか」に向けた様々な取組みが日常となった「まち」です。

私たちが2050年に達成をめざす「まち」を創り上げるため、様々な取組みを展開します。めざす「まち」の姿と、取組みの関わりは「ゼロカーボン おおさかに向けたスキーム」図に示すとおりです。

めざす社会をかたちづくるまちを達成するための取組みの詳細については、「第2編 ゼロカーボン おおさか の実現に向けて」に記載します。

めざす社会、社会をかたちづくるまちの達成には、大阪市だけではなく広く様々な地域と連携し解決をめざす必要があります。

2020年7月に、大阪市は大阪府と共同で国に提案していた「SDGs 未来都市」に選定されま

した。また、「SDGs 未来都市」提案の核となる事業である、「大阪発『大阪ブルー・オーシャン・ビジョン』推進プロジェクト」（以下「推進プロジェクト」という。）が「自治体 SDGs モデル事業」に選定されました。

推進プロジェクトでは、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」達成に向けた道すじを示す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の策定と、象徴的な取組みとして「新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」を確立し、経済、社会、環境の統合的な向上をめざします。

推進プロジェクトの実施を通じて、地域内のミクロなローカル SDGs の形成を、また、事例の共有や広域での展開を通じて、より大きなローカル SDGs を形成し、推進プロジェクトを切り口として、めざすべき社会、社会をかたちづくるまちを達成するため、様々な主体とのパートナーシップ構築を図っていきます。

## ■ ゼロ カーボン おおさかに向けたスキーム



### 3 計画の進行管理

計画の進行管理は、市長をトップとする「大阪市地球温暖化対策推進本部」のもとで各施策の実施と管理、PDCAによる見直しを行います。

進行状況の評価結果は、「大阪市環境審議会」に報告するとともに、大阪市環境白書やホームページで公表します。

また、計画は、今後の社会情勢の変化等を勘案し、適宜見直しを行うこととします。